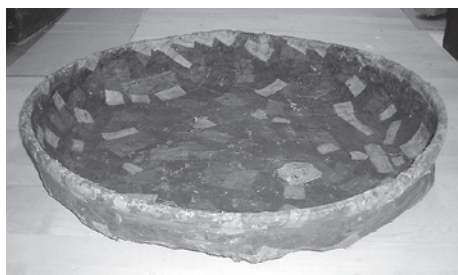




▲茶壺



▲茶撰カゴ

甲賀市の 文化財⑳

土地独特の工夫を凝らした
製茶用具

市の特産品のひとつにあげられるお茶の歴史は古く、朝宮茶の起源は今から約1200年前であるという伝承を持っています。消え行く特産品も多いなか、現在でも主に土山・信楽・水口で作られており、県内の約8割の生産量を占めています。

現在の製茶工程はほとんどが能率の良い大型の機械によるものですが、機械導入以前の製茶は人の手によるところが大きいものでした。

地域や気候にもよりますが、立春から数えて88日ごろになると茶摘みが始まります。女性たちが肩から下げたり、腰につけたりした茶摘みカゴに新葉を摘みます。集められた新葉はすぐに茶蒸し用の蒸籠で蒸します。これは茶葉の発酵を止めるためです。これを冷ましカゴなどで冷まし、炭を入れた焙炉の上に木の枠に和紙を張った助炭を乗せ、その上で乾燥させながら何時間も揉んでいきます。完全に乾燥された茶葉は茶ドオンなどで大きさを揃えたり、箕で粉になったものを飛ばしたりします。そして茶撰板で均一で良質の茶葉を取り出す作業へと続きます。選別された茶葉は茶壺に詰め、和紙で包んだ木の蓋をして渋紙をかぶせました。茶壺はその後、より気密性の高い茶櫃や茶箱に変わります。

こういった製茶用具は、その土地その土地の茶作りに適した形に改良が加えられていきます。大まかには同じように見える道具でも、その土地独特の工夫が凝らしてあるものなのです。

問い合わせ 水口歴史民俗資料館
☎ 062-71141 FAX 033-4737

ふ

るさと甲賀の豊かな歴史文化を解明する『甲賀市史』。その第1巻を12月20日(木)から販売します。

甲賀市史は、かつて出された旧5町の町史をまとめた本ではありません。甲賀市全体を対象とした全く新しく編さんした本で、甲賀の地でこれほど広域の歴史書が編まれるのは、大正15年刊行の『甲賀郡志』以来なんと81年ぶりとなります。1冊3,500円(税込)で、市内5か所で購入いただけます(詳しくは11月1日号をご覧ください)。

これにあわせて第1巻の刊行を記念して講演会を開催します。

今回は「聖武天皇の夢と紫香楽宮」と題し、京都女子大学教授の瀧浪貞子先生にお話いただきます。先生は日本古代史とくに女帝論・後宮論がご専門で、『帝王聖武—天平の勤き皇帝』(講談社)、『女性天皇』(集英社新書)ほか多数の著書があり、多方面でご活躍です。

今回の甲賀市史第1巻では、聖武天皇が造営された紫香楽宮と、甲賀の古代史を彩るもう一方の主役というべき「斎

王群行」について執筆いただきました。聖武天皇に大仏造立を「決意」させたのは何か?そしてその「夢」の行方はどうなったのか。わかりやすく語られます。

入場は無料。市史の予約・購入の有無にかかわらず聴講できます。また会場では市史第1巻を、一般販売に先行してお求めいただけます。ぜひご参加ください。

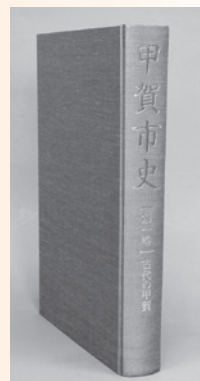
市史の小径

第26回

甲賀市史第1巻で探る!
「聖武天皇の夢とは?」

記念講演会

日時: 12月16日(日)
午後1時30分~4時
会場: 忍の里プララ・ホール
聴講無料



購入・問い合わせ 歴史文化財課 市史編さん室
☎ 86-8075 FAX 86-8216